

1.

拜啓陳者、陛下 益々以壯健國家のため、以書五カキ、
ハ鋭、茲ニ祝賀いたす。 次ニ小生及び愚妻、日々を事、
仕事より、此れは、此れを、以休神、其法は
時々書面を、上げ可申り、彼是、色々の仕事、
とりまき、今日まで、此れを、彼是、色々の仕事、
り、何卒、事情は、推察あり、其つみは、海を、
り。

さて、今回、王三府より、左の五名を、本邦に、留學せられた、おと
あ、あり、即ち

- 徳ツ 欽チン (トシ先)
- 恩オン 和ワ 布フ 林リン (イロハ)
- 諾ダク 和ワ 畢ヒ 勒ラク 格カク (イロハ)
- 正テイ 月ゲツ 各カク 圖ト (イロハ)
- 特トク 木キ 各カク 圖ト (イロハ)

右は、つれ、此、水、人、を、吟、嘯、池、王、の、臣、下、の、者、の、サ、ハ、小、徳、
諾、正、の、三、名、は、軍、人、志、願、者、也、恩、特、の、二、名、は、軍、醫、由、志、願、
又、は、學、生、也、前、の、三、名、は、士、官、の、次、格、あり、
相、當、の、教、育、あり、後、の、二、名、は、士、官、の、次、格、あり、
天津、此、等、お、ら、し、留、學、せ、る、中、是、等、五、名、の、中、
三、名、は、多、少、日、本、法、に、解、し、申、し、善、業、は、さ、つ、あ、る、事、也、
右、五、名、を、今、回、王、府、より、日本、に、留、學、せ、ら、る、事、は、
本、邦、の、ため、誠、に、祝、賀、す、ま、す、と、存、じ、り、而、し、本、邦、に、

御子に就て喧嘩必王より一切結ぶ小生に一任せられを以て小生は同人等と對し周施の方をとるべきとあり申上。

小生は茲に敢て陛下に 同人等を紹々申上は、學多申上渡らせられりて、陛下 同人等のため何分のは

書立力の程軟上は、此は將來世にお用致、其他の事と申就て最も大切なる事と存じ、小生より 特々陛下に

向ては書立力の儀を伏して致上申上、若し此の御留學生は、好結果を以てば、次で續々喧嘩必王に付はもとより、

此は各内外におれ、留學生を本邦に派遣するは明かある事と存じ、かくあるに邦家のため、まさしく喜ばし

きと存じ候。

在王各は、はるく貴校にては教育を致上、幸ひ軍醫志願者は、貴校に在りて、留學の設備ある、されども

留學ありしとあるを可と存じ、又、各の軍人は、書立を、はるく日本漢を學ばし、便利と心得申上、此は

はるく、政府を以て、留學に便せしめ、此は、留學の、軍人の、留學に便せしめ、此は、留學の、軍人の、留學に便せしめ、

以上の五各は、小生は、深く、其人物の、善き、良き、を、保證、申上、

此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、

此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、

此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、

此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、

此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、

此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、此は、留學に、便せしめ、

此の般十生より特に款上置りし。

喀喇沁王より一書を 閣下ニ呈し申すなり。

同王は 閣下 といふを自らかりしを之を以て

今御同王に代るは挨拶申す。同王より 閣下ニ

よろしくと申すなり。

高津上置りしが 今回の留學は清國政府(兩院)の對

し最も秘密としたり。是の如き分はよく申す

此の秘名をかきくばす。款上

小生吉地ありかぎり。國家のため出生得る。其の

より本邦に向て留學生を派遣せしめ考ふる。其の

此の地的は貴校の最もよろしき所を信ず。是は

下ニ款せしめ。あるが。あは注意の程款上置り

且つ貴校の重たさなる方より。此の如きあり。あは

つたて置りし。尤も其の人は漢人と異なり。其の

まゝより相いれざる性なり。漢人の教育に別は

せしめしさを祈り申す。

トレゴート王もす。本邦に留學いたし。其の

周施する人。其他の如きあり。好ましく申す。其の

は、此の如きより多く申すなり。

小生は吉地にあり。直して其の人の生まれし。其の
 其の古流を学ぶ。其の吉今は一。其の
 又流の自由なり。其の
 其の他の研究より。其の永くして。其の

女のことは茶文の佛典までさきつけたり心組と
男妻もあはれくさるる病に同んは吉地^{十一年}は三三
月休葺りしは一寸利申のちの歸國いたすこと
其際^病は是非^病下りてり種^病申
上なきと存之と。多分^病是年一月下旬歸京
の^病上^病に^病信^病り^病し^病。

又留學生を伴ふ。男妻の妹市原左き子
るの貴^病館^病に^病ま^病り^病し^病出^病申^病り^病な^病。何^病年^病回^病
下はは雨合の葉を告へ給へりまう。又留學
生の下宿^病は^病女^病寮^病宿^病舎^病の^病何^病づ^病れ^病の^病所^病も^病
よ^病ろ^病く^病ら^病ん^病は^病は^病外^病に^病く^病ま^病り^病し^病、^病上^病は^病ひ^病ま^病り^病給^病
上^病還^病り^病

先^病に^病石^病ま^病り^病給^病

十一月七日

咳^病嗽^病沁^病玉^病府^病子^病と

鳥^病居^病龍^病藏^病

大隈伯爵閣下
御奥方様

男妻もあはれくさるる病に同んは吉地は三三
三^病申^病り^病給^病